

す。

昔、我々が地方に行きますと、知らない子供たちが挨拶するんですね。

言葉は熊本弁でいいから、本当の思いやり、その気持のあらわれというものがある感じがします。

観光従業者、アルバイトの教育これが一番大切なことじゃないかと思えます。

田辺 国体のときなど民宿が盛んになります。その時は非常な熱意をもって受け入れる。そういう気持を常時持つて接していただきたいということですね。

竹下 そういう受入れ体制というものが、それぞれ個人の心にできにくい面があるんじゃないかと思いますが、心をうんと広げて、これを大いにやっていただきたいですね。

山口 若い人に熊本を説明してくださいといったら説明できる人が何人いるかと思うんです。今お話を聞いていて私もあらためてそんなこともあるのかと思うくらいです。

例えば、熊本ではお土産は「何を買って帰れば」と県外の人に聞かれたら「そうね、何があったかしら」と、私、本当に考えると、お年寄の方は存じていらつしやるコマとか民族工芸品なども多くあると思うんですけど、若い人には以外と知られていません。若い人には若い人が案内しますでしょう。案内する人がその地域を知らなければ、お客は呼べないと思うんです。だから若い人も

きもすべての人が案内できる、そういうものがほしいと思います。

竹下 そうです。まず熊本の観光を広めようと思うならばですね、まず県民が自分の地域を知らなければなりませんね。

観光を振興する大きな基になると思えます。

田辺 余りにも情報過多時といえますか、居ながらにして世界中のことがわかる時代、ついそういう方面に視野が広がりすぎて、足もとを見失ってしまったという感じがします。



田辺 寛三 部長



### 魅力ある施設づくりを

菅 山口さんは外国なんかに行かれて、こんなのが熊本にもあっていいなあと感じられたことはありませんか。

山口 外国で感じたんですけど、若者はお昼は公園に出かけたり、休日だったらキャンプに出かけたり、釣に行ったり非常に多くの人がするんですね。それで熊本というんじゃないかと日本全体で若者が積極的でないという感じがします。仕事と遊びとが両立できないということもあると思うんです。施設の少ないのもその一つでしょうけど、自然を生かした遊びを上手にすることがへたと思うんですね。ローラスケート場とかそういう施設は外国にはたくさんあるんですけども、日本には非常に少ないと思います。若者を引き寄せるようなものが熊本にできたら。雄大な土地があるんだから、狭っ苦しい中に引き込んでいないで、どうぞ自然へという感じのものが。

田辺 観光の基本の柱として当然施設の整備を図らなければなりません。行政でやるべきものと民間業界でやっていくものとあると思います。農村は農村なりに、漁村は漁村なりにですね。

菅 久木野村に大規模年金保養基地の計画が進められていますね。これに私は先想したのですけども、これは老人天国といわれていますけど、結局そこに老人の生きがいのある場を見つければならないということなんです。老人だけが集まる施設だったら意味がないと、やっぱり若者も来てくれないといけないですね。そこで若者のためにはどんな施設をつくったらいいだろうかと。

田辺 老人対策というと、老人だけを単独にして、別世帯をつくってやればいいという発想ががちなんですね。そうじゃなくて、仮に別世帯で生活していても、常に通い合うものがあると、老人と若い人達の生活を切り離すことはできないでしょうし。

菅 積極的に切り離しても、近くに若者向きの施設があれば、うちのおじいちゃん、おばあちゃんが رفتるからと理由つけて行くみたいな利用の仕方というものですかね。

竹下 今、ゲートボールが老人の間に広まっていますけれども、これはいい面もあるけれど、悪い面もあるそうですね。ですからそういうものが、今おっしゃったように何かミックスされたような形で。

### きれいな川を取り戻そう

うのも非常に大きいと思います。竹下さんがおっしゃったように点から線、そして面へという広がりがあれば時間的に長くかかるから滞留せざるを得ないというような発想は成り立つてしまうんですね。



山口 裕子 さん

菅 先程も申しましたが九州横断の国際観光ルートの利用の仕方が変わってきていますね。

昔は、別府の温泉に泊って夜の観光を楽しんで、翌日阿蘇を見て、熊本に來て、三角から雲仙に行つて雲仙に泊るというコースですね。ところが、湯布院にある施設ができて、泊り方が違ってきている。やはり観光の仕方自体、昔の夜の観光型から変わってきているように思えますね。夜の観光も必要な面はあると思いますけれども、熊本市内での観光も考え直してみようではないでしょうか。

私は熊本に帰ってきてまず感じたことは、熊本城の内堀である坪井川の水のきたなさはがっかりしました。アメリカ旅行から帰ってきたとき、何んて日本ていいんだらうと感じたのは、きれいな小川が流れていて、山も非常に変化に富んでいる、それで水の美しさがいなあと考えたのです。熊本は森の都といわれています。森という水にも結びつきましますね。

もう一つは、昔は船場といわれる場所あたりまで船がのぼってきていました。熊本市には坪井川、加勢川、白川という大

きな川がありますね。江津湖もきたなくなつてきていますし、河川改修事業と結びつけて、一方では観光みたいなもの、あるいは都市内交通みたいなもの、結びつける方法があるのではないかと気がします。

田辺 確かに水というのは重要な資源だと思います。江津湖については、本年度の県の施策の中で、開発計画をもう一回見直しながら、きれいにするというところで取り組んでやっています。

菅 観光的にも利用したいから、これにこういう形で、行政の横のつながりです。田辺 観光資源の再現という主旨で江津湖開発をやっていますからね。

菅 水路体系に興味がありますけれども、河川改修事業とか、下水道整備事業とひびくって水をきれいにする方法が考えられていけば、熊本に行けば、きれいな小川が流れていて、そこにはホテルがとんでよとか、河川べりに屋台などが並んで遊べるよといったことができ

てきはしないでしょうか。田辺 実は江津湖を出発して中の瀬を通